

# あれこれ通信 NO.95

渋谷とみ子の議会報告

2020年2・3月

埼玉県比企郡嵐山町千手堂 39-46 渋谷とみ子 TEL/FAX 0493-62-7997

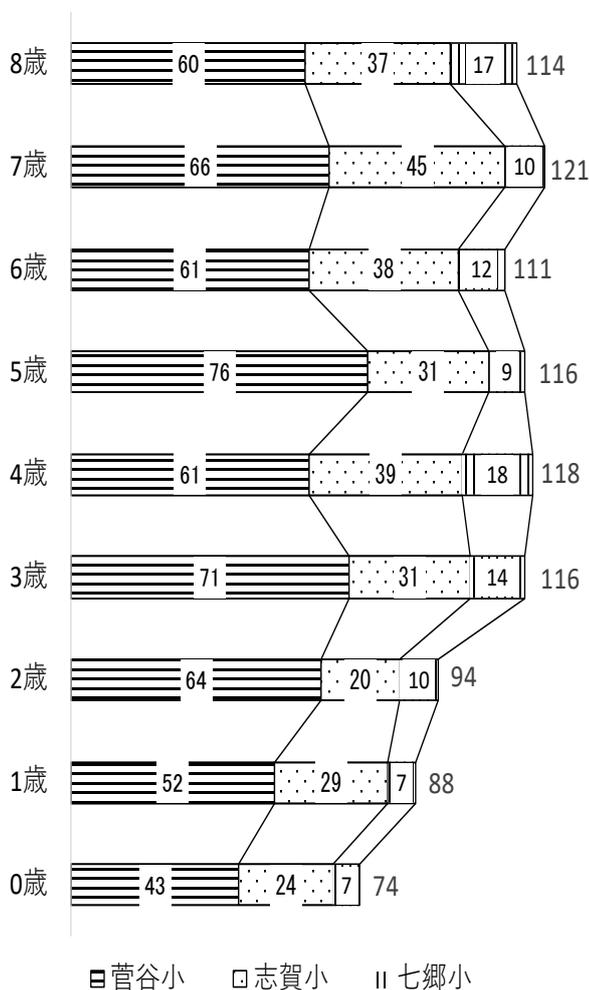
HTTP://space.tom-shibuya.com Email shibuya97@s4.dion.ne.jp



…嵐山町はどう変わるのか…

## 6年後、小中学校は1校の計画です。

学校区別の子ども数(2019年12月1日)



上記は2019年12月1日の学校区別の子ども数グラフです。6年後の小中学生は950人前後です。出生数が8年前の3分の2になっています。



嵐山町は、新しい小中学校を菅谷中の敷地に建設する計画を発表しました。菅谷中中学生は2024年と2025年は、玉ノ岡中に通学します。その間に現菅谷中を解体し、新しい小中学校を建設する予定です。少子化での教育、財政、地域の関係性が課題です。



### 少子化の進行が予測より早い。

右のグラフのとおり、6年後の1年生～3年生の児童数は、1学年100人未満です。七郷小地区の子どもは、1年生から3年生は10人以下です。

8人以下になると2学年一緒の複式学級になります。複式学級よりは、統合ということですが、複式学級はマイナスでしょうか。通学は大丈夫かな？6歳から15歳が、一つの小中学校で長時間生活し、学ぶのは、いい面もあるし、困る面もあります。地域・父母・行政・学校で協議したほうがいいです。



### 小中一貫校で建設費と運営費は？

現校舎の解体費用を含め建設費は30億円程？小中一貫校になると、国の補助金が2分の1。残りは借金。現小中学校を改修するより安上がりです。教員の人件費は、県が支出します。校長先生と教頭先生で一人1年間1000万円として、10人が2人になると県の人件費1億円が2000万円になります。



### 学校は、地域の文化・歴史のかなめ。

こどもは地域の未来を引き継ぎます。

小学1～4年生は、現学校で、新しい学校の分校にして、地域と一緒に子どもを育てましょう。スクールバスは通学距離4km以上です。4km未満の長遠距離を歩く子どもが増えます。安全を確保するには？